

東京水道の歴史

1 はじめに

人の生存には1日に少なくとも2リットルから3リットルの水が必要であるといわれています。

人間が生きていくうえで、水は、空気とともに欠かすことができない大切なものなのです。

人間は昔から、湧き水のあるところや川の流域など、飲み水を手に入れやすいところに住居を構えて生活を営んできました。

しかし、次第に人口が増えていくと、人間は水を簡単に手に入れることができない土地にも進出し、井戸を掘ったり、川に堰を設けて水路などを引いたりして、水を手に入れるようになっていきます。

多くの人が集まり、都市が造られるようになると、生活や産業などに使用する大量の水を安定的かつ効率的に供給する方法が重要な問題となりました。

この連載では、東京を例にとって、江戸から東京へと都市が発展する過程の中で、安定した給水を確保するために、水道がどのように造られ、発展していったかについて、お話します。